

怪談の夕べ

◆脚色・翻案・構成は一部作品を除き／岡崎柁男
◆演出／平尾登紀子◆演出共同・振付／平尾麻衣子

Program

・今回は猫と鯉の怪談を
多くしました。
「幽霊パンフ」より



カットは北京画

8月7日(金)

8月8日(土)

①一人語り「消えた死体」(『笑うどくろ』実業之日本社)…………… 鐘木明紀
・昭和5年(1930)4月14日、福島県郡山市に奇妙な事件が発生したと、時事新報紙が報じた。通夜の客が集まった家から、遺体が忽然(こつぜん)と消えたのだ。真相不明のまま、「神隠(かく)し」に会っただけの「狐憑(つき)」になったなどと噂が飛び、迷宮入りとなつた。

②二人語り「流れ瀧頂(かんじょう)の幽霊」(『笑うどくろ』実業之日本社)
…………… 清水美栄子(語り・少年)…………… きむら啓子(亡者)
・川で亡くなった人を供養するために、水辺にこしらえた流れ瀧頂(かんじょう)は、昭和初年でも下町の川べりに見かけたものだった。日暮れに近くを通るのは大人でも怖かった。

③一人語り「雨夜の口裂け女」(『江戸城七不思議』げんごろう)…………… 柴田恵子
・今の新宿区大久保百人町は、伊賀組とか二十五騎と称する、鉄砲を扱う組屋敷のあった地域。この怪談、つい数年前にも大流行した口裂け女のルーツ?

④一人語り「お初長吉 鯉の心中」(『両国・錦糸町むかし話』下町タイムス社/
『新版「置いてけ堀」』げんごろう=改訂新版)…………… 近藤真紀子
・平成9年(1997)ベストセラーから映画・TV化された『失楽園』や近松門左衛門の浄瑠璃を思いだされる方も多いかも。なお二人の名前は初出を改めた。

⑤一人語り「鯉の願い」(『謎のなんじゃもんじゃ』げんごろう)…………… きむら啓子
・沼や淵の主が僧侶になって漁師を訪れ、禁漁を頼む民話は全国にある。語りの中で「こそ雨」というのは、コソッと知らぬ間に降る霧のような雨の下総方言。

⑥一人語り「狸囃子」(『おいてけ堀』げんごろう)…………… 柴田恵子
・共存本所七不思議の一つだが、この話は麻布七不思議や千住七不思議その他にも入っている。関心のある方は岡崎著『江戸の間・魔界めぐり』ご一読を。

⑦一人語り「たましいの散歩」(『蜘蛛の呪い』実業之日本社)…………… きむら啓子
・赤坂見附駅付近や青山通りはオシャレな繁華街だが、江戸時代の表裏赤坂伝馬町の周辺は、大名や武家地、寺社地で、夜更けの歩行は物騒だったろう。

<休憩> 10分

⑧紙芝居「おいてけ堀」(『おいてけ堀』げんごろう/『江戸の間・魔界めぐり』東京美術)…………… 柴田恵子×近藤真紀子
・江戸のむかしから本所七不思議の第一に上げられている。この回は特別に著者秘蔵の門外不出の一点物の切り絵(安部道夫)の紙芝居をお目にかけましょう。

⑨一人語り「生き返った亡者」(『謎のなんじゃもんじゃ』朗読劇脚本集・猫の仇討ち・猫の恩返し)げんごろう)…………… きむら啓子
・通夜に集まった男どものいたずらが…猫の魔力があつた世から老婆を連れ戻す。

⑩一人語り「達魔が時の妖怪」(『蜘蛛の呪い』実業之日本社)…………… 近藤真紀子
・江戸は麹町の裏店で、ささやかに小間物を商う気楽な一人者の甚助が、すれ違う人の表情も見分けのつかぬ頃合いに、店を訪れた美女の魔物に魅入られた。

⑪一人語り「黒猫とキュウリ」(『朗読劇脚本集・猫の仇討ち・猫の恩返し』げんごろう)…………… 鐘木明紀
・著者は神奈川県委「かながわのむかし話50選」の選定委員をしたが、その中より多数を劇化。掲載した脚本集により各地でさまざまな方により語られている。

⑫三人語り「猫の仇討ち」(『朗読劇脚本集・猫の仇討ち・猫の恩返し』
『おいてけ堀』げんごろう)
…………… きむら啓子×柴田恵子×近藤真紀子
・両国の回向院には猫塚が複数ある。一番最初の物は鼠小僧次郎吉の墓の左にケースに入って大切にされている。鼠の隣に猫oh! ナント粋では? ないかいナ!

①一人語り「消えた死体」…………… 鐘木明紀
②二人語り「流れ瀧頂(かんじょう)の幽霊」
…………… 清水美栄子(語り・少年)…………… きむら啓子(亡者)
③一人語り「雨夜の口裂け女」…………… 柴田恵子
④一人語り「お初長吉・鯉の心中」…………… 近藤真紀子
⑤一人語り「火車猫おとら」(『謎のなんじゃもんじゃ』朗読劇脚本集/猫の仇討ち・猫の恩返し)げんごろう)…………… きむら啓子
・利根川を境に茨城側では「にごって発音」するが千葉県側は、濁らない。だが柏・松戸辺りに伝わるこの怪しい猫の民話では「ねご」と濁って呼ばれる。

⑥朗読「鯉が結ぶ恋」(『おいてけ堀』げんごろう)…………… 丸山詠二
・民話には鯉が霊界の使者として訪れる話もある。「半七捕物帳」で知られる岡本綺堂の「鯉」という短編では、天台宗の寺となっているが、現在は浄土宗の龍宝寺に鯉塚は現存。風俗画家・伊藤晴雨は、この鯉は、上野の「不忍池の浅瀬(しんせつ)始まりて、これに驚きて逃げ下りけるか」と書いている。

⑦三人語り「猫の仇討ち」…………… きむら啓子×柴田恵子×近藤真紀子

<休憩> 10分



・三代目岡田国輝が明治19年(1886)に出した「本所七不思議」の中の「たぬきばやし」。墨田区緑図書館提供。同すみだ郷土文化資料館蔵。
・げんごろう版の本には、こんな珍しい絵もギッシリ満載。

⑧一人語り「狸ばやし」…………… 柴田恵子
⑨一人語り「生き返った亡者」…………… きむら啓子
⑩一人語り「黒猫とキュウリ」…………… 鐘木明紀
⑪一人語り「鯉の願い」…………… きむら啓子
⑫一人語り「達魔が時の妖怪」…………… 近藤真紀子
⑬朗読「謎の振袖火事」(『おいてけ堀』げんごろう/『江戸の間・魔界めぐり』東京美術)…………… 丸山詠二

・「武江年表」(嘉永元年・1848年)によると、大名屋敷500。旗本邸770。社寺350がこの火事で焼失したといえ、死者10万7046人と記される、世界火災史上トップランクの災害だった。しかしここには述べなかったが、それは人災の悲劇でもあった。両国橋は、その結果として架橋された。



紙芝居の中の「秋の景」=カメラ・森田研作/千葉県知事とは別人で、例えばさだまさしの全ステージを撮影しているベテランカメラマン。

全ての作品の脚本は岡崎柁男です。書名は岡崎柁男著です。



③今回の《戦争民話集》の上演にあたっては、中央区/墨田区教育委員会を導き、墨田区立緑岡図書館/同すみだ郷土文化資料館等の他多くの方々より、ここに記しきれないほどのお力添えをいただきました。あらためてお礼申し上げます。

Staff
 作曲・編曲・生演奏◎桜庭 伸弘
 選曲◎鴨 一平
 照明◎小川功治朗
 音響プランナー◎岸本敦夫 (アセイサウンド)
 音響オペレーター◎板橋孝行
 パワーポイント制作・操作◎平尾麻衣子
 舞台監督◎大川太郎
 プロデューサー◎平尾麻衣子

◎げんごろう企画・プロデュース舞台作品には…
 ・戦争をテーマにした3つのシリーズがあります。
 《妻と母たちの昭和20年》
 《子どもたちの太平洋戦争》
 《戦争民話集》
 ……の3シリーズです。

戦争民話集

※演目の書名は岡崎著書。書名なしは、書き下し脚本です。

◆脚色・翻案・構成は一部作品を除き/岡崎柗男
 ◆演出/平尾登紀子
 ◆演出共同・振付/平尾麻衣子

Program

8月8日(土)昼

①歌&語り「あの頃の歌あの頃の思い出」(「下総の唄歌」単独舎ほか)
 ……近藤真紀子(演奏・歌・語り)×清水美栄子(わらべ遊び)
 ・太平洋戦争末期、当時は国民学校と呼ばれた小学校の4年生以上で、地方に親類などの無い家庭の子どもたちは、学童集団疎開で親から引き離され旅立った。



※左図は…
 『あの日を忘れない』すみだ郷土文化資料館監修・提供。柏書房刊。
 ・当時業平国民学校6年生で千葉県白鳥村へ学童集団疎開した、村上敏子さん画。

②一人語り「謎また謎の六本木」(「江戸東京伝説散歩」青蛙房ほか)…丸山詠二
 ・麻布七不思議の「六本木」には、いろんな伝説がある。源氏との戦に敗れた平家の落武者6人が、切腹した跡に六本の榎の木を植えたというので、六本木の名が付いたとも伝わっている。
 洒落で「丸亭ひよろり」の芸名も持つ人気バイプレーヤーが、講談・落語・吹き替え風その他さまざまなかたの芸を織り込んで、楽しんでいただく一刻。



麻布一本松
 「新選東京名所図絵」(部分複写)
 「江戸東京歴史散歩」より

③一人語り「母さんの子守唄」(「下総の唄歌」単独舎ほか)…きむら啓子
 ・敗戦によるソ連軍の進駐を逃れて、南禅太から本土へ引き揚げる母親と8人の子どもたちが、石炭を積む貨車にゆられて、立ったまま眠る過酷な道中で聞いた唄は、千葉県東葛地方に伝わる「ねごのおけつ」という、親元離れて子守奉公する少女の涙の子守唄だった。(志村アイ子さんの文章「引き揚げ」も参考にいたしました。)

- ④一人語り「戦争妖怪くだん」…近藤真紀子
 ・今は死語となった「よって件の如し」という言葉を背景に、突如出現した牛の格好をした妖怪、いやや言妖怪が跋扈(ばっこ)した敗戦間近の日本列島。
- ⑤群談(ぐんどく)「生き返った夫婦銀杏」(「江戸城七不思議」げんごろう)
 ……きむら啓子・柴田恵子・近藤真紀子・鏡木明紀・清水美栄子
 <休憩> 15分
- ⑥歌語り「いやじゃあ?りませんか徴用工」…柴田恵子
 ・演歌の大好きな人もいればクラシックでなければ承知しない人も居る。人さまざまだ。戦争末期に秘かに流行した類廃的な「いわば陰の軍歌」は、厭戦的として迫害されたが、消えることはなかった。歌は敗戦を予感すらしていた。
- ⑦リレー朗読「母ちゃん只今。帰っただよ」
 ……丸山詠二×きむら啓子×鏡木明紀
 ・ある作家の鎌倉の家の庭にサフランが咲いた。同じ朝の東京下町は、阿鼻叫喚の地獄図絵だった。陸軍記念日だった。別の場所では、出征した一人息子が、母と妻に夢の中で会いに来た。陽が昇ると村役場から戦死の公報が届いた。
- ⑧朗読「馬頭さま」(「おいてけ堀」げんごろう)…丸山詠二
 ・東京大空襲で命を落としたのは、非戦闘員の老人・女性・子どもだけじゃ無い。馬車屋を業とする人々が家族のように可愛がった馬も無残に焼死した。
- ⑨群談&リレー朗読「浦上村の祐次郎」(遠藤周作原作「走馬灯その人たちの人生」毎日新聞社より/岡崎柗男脚本)
 ……きむら啓子・柴田恵子・近藤真紀子・鏡木明紀・清水美栄子
 ・8月9日は長崎に原爆が投下された64年目の記念日。その浦上は、日本人が血によって信仰の自由を獲得した「記念すべき」土地であった。

□お願いとお断り
 ★著作権(文芸・振付)、音楽著作権に関わる作品も多いので、写真撮影、ビデオ録画や録音は事前に届け出願した方以外は、すべてお断りしております。ご了承下さい。
 ★また携帯カメラからの同様に為もお断りしております。
 ★開演前に、携帯電話や、アラーム時計等のスイッチは、必ずお切り願います。
 ★場内での、ご飲食やおタバコは、ご遠慮下さい。
 ★この発表会では、舞台で花束、プレゼント類はいっさい頂かないこととしております。ご持参された場合は、受付にてお預かりし、ご本人にお渡しいたします。ただし高額な金品はお預かりいたしません。
 ★都合により出演者や演目の内容が変更になる場合もございます。